

なのか。これ以上オーバーする可能性はあるのか。傍聴していると、額が違ったり内容が違ったりするが、そのような要望は出さなかったのか。前と違う結果が出てきているが、どのように検討したのか。

【回答】小松主査：7億2,720万については、このエリアで温浴施設をやる場合の積算であり調査結果となっている。整備費が確定ということではない。こちらで示したものの以外についてはサウンディング調査で聞いており、施設規模については検討委員会でも詰めていきたいと思う。前回は利用者人口を基に計算をした。今回は改めて商圈人口を基に計算した。

【回答】肥後副参事：今までは文献を調査して、その結果から試算をした。今回は、専門のコンサルが知見を用いて調査したのでより精度が高まったと認識している。

●石井副管理者：前の資料の調査費用は一切かけていないということで良いか。前回調査との違いを、比較検討できるように示してもらいたい。

正副の場で問題点を発見するのではなく、疑問には必ず答えてほしい。説明が前回と違う。その差も示さないで説明されても、理解しかねるので的確に説明してほしい。副管理者の立場は、市民への説明責任は議員よりあると思っている。この場でできる限り聞いておきたい。

【回答】肥後副参事：委託には出していない。

本体事業のアドバイザー契約で、資料の文献や収集はお願いしている。専門業者が委託を受けまとめたものではなく、あくまで文献の中で調査したものであった。

【回答】黒澤課長：参考文献より算出していたが、今回はサウンディング調査の報告を受けたものである。

●石井副管理者：温浴施設の総経費には土地も入っているのか。余熱利用施設を含む場合と含まない場合の金額は、別に出すべきではないか。運営や建物の償却は考えているのか。土地も含み、金額を出したうえで説明しないと総事業費が分からない。

【回答】小松主査：施設整備基本計画の中で余熱利用施設を含むものとして計画している。運営はDBOで、償却は考えていない計算である。

●管理者：土地はこれから鑑定をかけ、大ざっぱなことをいうと独り歩きして

しまう。ある程度しっかりとした金額が出てこないと、地権者に迷惑がかかる。

●石井副管理者：そういうことも書いておけばいい。金額は載せられないとか、減価償却についてはこう考えているとか。

総事業費には、土地から人件費からすべて入るのは当たり前であり、そういう中から判断をしたい。

サウンディング調査も1つでなければならない根拠がないので3つくらいほしい。それはあったのか。サウンディング調査が甘いのではないか。1つを求めたのでは何も見えない。これより小さい規模で5億円10億円だとかのようなのができるのか。そのようなことを加味してこれがいいと誰が判断したのか。1つで少額でいいものを作るという考えがあったのか疑問である。

【回答】小松主査：今回はたたき台としたので1つしか作っていない。7月12日の検討委員会に資料としてお示しするというので報告している。施設整備の細かい段階で金額を整理して報告したいと考えている。サウンディングの相手方からも方向性としては間違っていないと回答が来たので、提案については問題ないと考える。小さくした場合、大きくした場合も、どちらにせよ収支が取れない。収支が取れるバランスは7億3,000万程度がいいと確認した。

●石井副管理者：大手はできないと調査にある。本当に理想的にできるのか疑問だ。これでもやれる自信があるのなら、行田の客は入らなくてもいいから、あなたのところで全部やってという話になる。ランニングコストから全部見えてくれという話になってしまう。こんな話は言いたくないし、商圏に入っているのである程度協力させてもらう必要もあると思う。しかしこういうことをやる時においては、これが理想だという言い方はぜひやめてほしい。先の話ではないが、7億5千万円とランニングコストを考えたらもっとである。行田は財政破綻をしてしまう。7億5千万がそんなに正しいのか、という印象を受けた。1つしかないのだから、少額でもいいものをとの考えが入ったのが見えない。

●三宮副管理者：私も同感なのは3案を示した中で選択肢があるべきだと思う。

代替案がないので、このような議論になる。広域事業であればあるほど、選択肢がほしい。

本体についても3案くらい出してほしい。議会傍聴者があまりいない中では、選択肢を広げる手法でこれからやってほしい。まだ時間はあるし、急がば回れで、丁寧な資料提出が求められると思う。

【回答】山崎事務局長：両副管理者に頂いたご指摘・ご提案を受け止めて、資料作成と事業の進捗に努めてまいりたいと思う。

#### ⑥ 参与会の報告

●吉田参与会長：去る5月24日に開催された正副管理者会議において、石井副管理者から提案のあった案件について、参与会で協議をしたので結果報告をする。

まず、「総事業費」については、組合において7月中を目途に算出できるよう努力する、とのことであった。

また、「建設候補地を行田市とする提案」については、本組合がごみ処理施設の建設地を鴻巣市とする基本的事項を含め、3市の合意の上で成立していることから、参与会としては、組合内における協議事項には当たらないという結論に至った。

●石井副管理者：できる限り正確な数字を示して、結果的に事業費が大きくならないようにしてほしい。建設地を鴻巣市にするという3市の合意事項は知っている。広域の事業では、より安く市民のためになるということがあるから、ぜひそういうことも頭の隅に入れてほしい。高くなくて、安いのがいいと言っている。行田には建替え用地までである。可能性を全て排除する必要はないと思っている。この組合を立ち上げた一番の目標は、経費の削減であったと思う。ありきではなくすべてのものについて考えてほしい。疑義が生じたら合意について協議をすると書いてある。疑義を正す意味で聞いている。

●管理者：副管理者石井市長の話の中で、建設場所を小針にした方がいいのでは、今でも検討に値するのではとあるが、建設場所は今の場所で決定しているというのが大前提であるので、小針に持っていく話はしないでほしいと思っている。行田市の総意かは分からないが、3市の合意、今までの議会

の中で今の地に建設しようと、5年も6年もかけ協議をし、財政負担を少なくして行こう経費を節減して行こうという中で、話し合いをずっとしてきているわけである。石井市長から小針を、との話をされるのは非常に困る。その辺は今後発言は控えてもらいたい、このように思う。

●石井副管理者：できるだけ安くやるとの基本理念はないのか。

●管理者：ですから今のところで決まっている。あらゆる地権者・市民・議会の承認を貰っている。予算も組んでいる。今ひっくり返すことは3市の合意を最初に戻すということがいいのかどうか考えてもらいたい。

●石井副管理者：どんなに高くても今のところでやるのか。

●管理者：今の状況でできるだけ経費を節減しながらやっていくのが基本である。

●石井副管理者：比較検討しながら初めてできる話である。

●管理者：6年前に3市であそこにしようと決めた。地権者、市民、議会の皆さんの承認ももらっている。今から他の土地でやることはできない。3市の合意がだめになったということになると、組合が解散するということになってくる。その辺はよく認識をしてもらいたい。

●石井副管理者：認識してもらいたいのはこっちの話で、あまりにも費用がかかる時には、いろいろと考える必要がある。

●管理者：用地を変えることで安いとか高いとか考える必要はない。今の状況でやるのが大前提である。

●石井副管理者：3市のメリットがあるから広域であるのでは。大幅に違った時には考え直してはどうかと言っている。全部出してない。

●管理者：概ね分かっている範囲では出している。

機種についても出している。

●石井副管理者：(機種について)みんな知っているのか。

【回答】山崎事務局長：今は3つ決まっているところで入札に進んでいる。

●石井副管理者：3種類だけでも示してほしい。

●管理者：環境部局に確認してください。

参与会長の報告のとおりであるので、よろしくお願ひしたい。

⑦正副管理者の協議

●管理者：過日、石井副管理者の方から正副管理者の協議ということで話があったため、協議をするものである。

●山崎事務局長より経緯の説明がある。

5月24日の正副管理者会議において、5月以降の執行部体制について資料を示し、確認いただいた。その際、特に疑義はなかったため今の体制が確認されたと判断をしていた。その後、石井市長より、正副管理者の体制に疑義があるとの話があり、鴻巣、北本市長にも理解いただき、本日規約第10条に基づいた協議の場を設けることとなった。協議に当たっては、構成市の長の立場でということであるため、組合職員は一度退席をし、正副管理者会議は暫時休憩となる。

→ 結果、継続協議となる。

正副管理者会議席次

